

## コラム

### 第1棟の内装

第1棟の内部は鉄筋コンクリート構造となっているため、建築当時の木造部分はすべて失われ、復元された箇所もありません。しかし、内装に使われている多くの木材は、実は新しい木材ではなく、歴史博物館改修工事で撤去することとなった木材を再利用したものであります。特に中央階段には多くの木材が再利用されており、漆喰仕上げの壁や天井とともに大正初期の雰囲気を感じ出しています。



第1棟中央階段

### 鉄扉の復元

文化財を保存修理する際に、構造補強などのため部材を取り換えなければならない場合には、オリジナルの部材を廃棄せずに屋根裏などに保存することがあります。これは、今後、建築当時の姿に復元するときに再利用または復元根拠の資料とするために必要なことです。歴史博物館改修工事の際には、既にアーチ窓の外側にはめる鉄扉がすべて撤去されていましたが、第3棟のキャットウォークから建築当時の鉄扉が発見されたため、正確な復元が可能となりました。



第3棟キャットウォーク側窓鉄扉(建築当初)

### 辰巳用水石管のモニュメント

第2棟と第3棟との間に、辰巳用水の江戸後期の石管を活用したモニュメントがあります。歴史博物館開館時の埋蔵文化財調査結果から、現在のモニュメントの位置には、篠原家(前田家家臣)の屋敷のため池があったことが判明したため、市内で出土した辰巳用水の石管を活用し、「水」の豊かさを表現したモニュメントを造りました。また、モニュメント周辺に敷き詰められた縁石や瓦は兵器庫建築当初のものを利用しています。



現在の辰巳用水石管

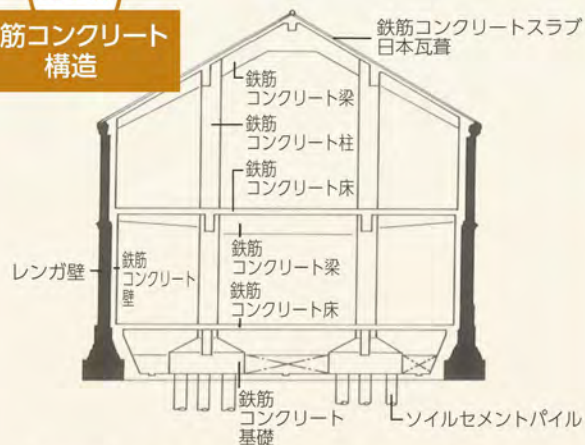
## いしかわ赤レンガミュージアム 3棟の構造

この歴史的な煉瓦造の建造物3棟を歴史博物館として使用するため、整備に着手したのは、1983年(昭和58年)のことでした。整備の方針としては、3棟とも外側の煉瓦壁をはじめ、原形をできるだけ保存することとしながら、当時考案されていた煉瓦保存補強工法である、鉄筋コンクリート構造による補強、鉄骨構造による補強、バットレス(H形鋼による鉄骨の架構)による補強という3つの補強工法を実施することとしました。これにより、数少ない貴重な歴史的建造物の保存と、歴史博物館としての活用を見事に調和させることができました。



1980年代の工事の様子  
第1棟の外壁を保存しながらコンクリートを打設している。内側の梁や柱は全て撤去されていることが分かる。

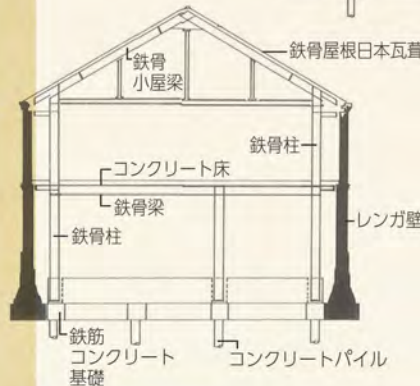
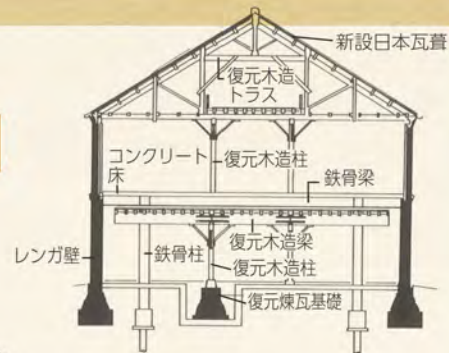
### 第1棟 鉄筋コンクリート 構造



道路側に位置する第1棟は、外側の煉瓦壁をそのまま保存し、外壁煉瓦の内側に存在していた主要な木造の梁や柱などを全て撤去して、その代わりに煉瓦壁と鉄筋コンクリート構造体を接着させる工法を採用した。この工法は、東京の工芸館(重要文化財:旧近衛師団司令部庁舎)などの事例と同様のものである。

### 第2棟

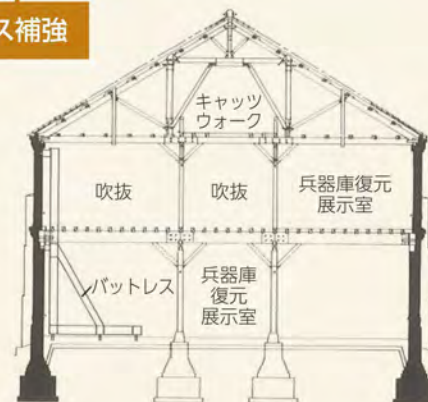
#### 鉄骨構造



中央に位置する第2棟は、外側の煉瓦壁に加え、なるべく木造部分を保存するために、屋内空間に鉄骨の柱や梁の骨組を新たに追加し、煉瓦外壁と緊結して構造補強する工法を採用した。その結果、石川県立美術館側の屋根の一部に木造部分を保存することができた。

### 第3棟

#### バットレス補強



道路側から一番奥に位置する第3棟は、陸軍の兵器庫として創建されたときの建物内外の形をそのまま残すため、側面外壁の内側の合計7ヶ所にバットレスによって補強されている。なお、2015年(平成27年)のリニューアルに際しては、更に7ヶ所のバットレスが追加され、鉄骨の頭をつないで補強された。

## 金沢 レトロ建築めぐり ~近代建築ガイドパンフレット~

## [国指定重要文化財] 旧金澤陸軍 兵器支廠兵器庫

いしかわ赤レンガミュージアム

# 旧金澤陸軍兵器支廠兵器庫

【国指定重要文化財】

**現在の外観**  
90mにも及ぶ長大な赤煉瓦の倉庫が3棟も並び立つ景観は全国でも珍しく、壮観である。

## 明治から大正にかけて建てられた3つの赤煉瓦倉庫

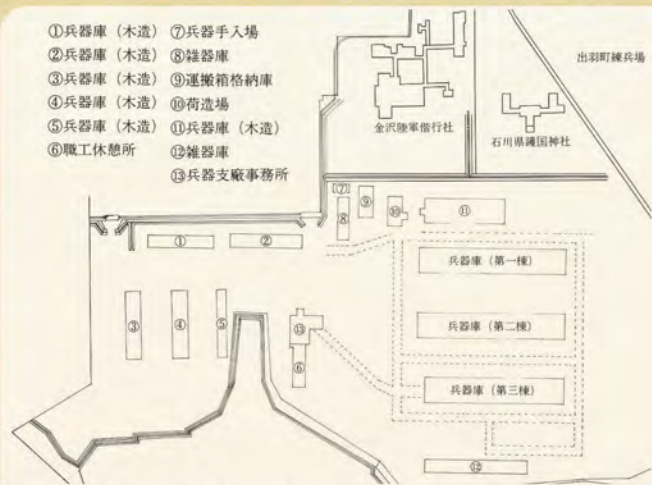


金沢美術工芸専門学校使用時の外観

いしかわ赤レンガミュージアムの3棟の赤煉瓦の建物は、かつては陸軍の兵器庫として使用されていました。道路側から、第1棟は1914年(大正3年)に、第2棟は1913年(大正2年)に、第3棟は1909年(明治42年)に竣工しました。戦後は、1946年(昭和21年)に金沢美術工芸専門学校(現金沢美術工芸大学)の校舎として使用されていました。



**練兵場通用門門柱(1986年頃)**  
いしかわ赤レンガミュージアムとNTT西日本金沢支店との敷地境界には、かつて、出羽町練兵場と兵器支廠の敷地を分けていた土塁の一部と煉瓦造の通用門が残されている。これらも兵器庫と同時に建てられたと考えられており、通用門は重要文化財として指定されている。

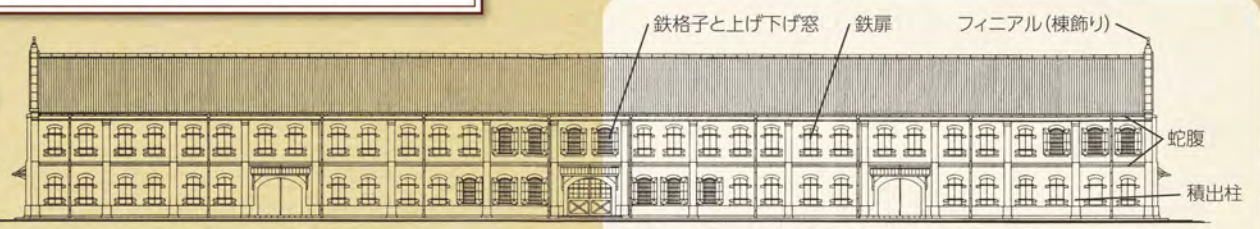


金澤陸軍兵器支廠兵器庫配置図(1935年)

現在の県立美術館付近には木造の兵器庫が設置されており、現在のNTT西日本金沢支店付近には、出羽町練兵所が広がっていた。

文化財区分:	国指定重要文化財(1990年(平成2年)指定)
年代:	第3棟 1909年(明治42年)建築 第2棟 1913年(大正2年)建築 第1棟 1914年(大正3年)建築 1983年(昭和58年)~1990年(平成2年)整備工事
構造形式:	煉瓦造2階建 設計者:旧陸軍第九師団経理部
《建物略年表》	
1909年(明治42年)	第5號兵器庫(第3棟)建築
1913年(大正2年)	第6號兵器庫(第2棟)建築
1914年(大正3年)	第7號兵器庫(第1棟)建築
1946年(昭和21年)	金沢美術工芸専門学校(現:金沢美術工芸大学)の校舎として使用
1972年(昭和47年)	金沢美術工芸大学の移転に伴い、県が所管
1983年(昭和58年)	石川県立歴史博物館改修工事(第1期)に着手
1986年(昭和61年)	石川県立歴史博物館として開館
1990年(平成2年)	石川県立歴史博物館改修工事(第3期)が竣工 国指定重要文化財に指定
2015年(平成27年)	いしかわ赤レンガミュージアムとしてリニューアル

### 側面図



金沢美術工芸大学の移転後、1972年(昭和47年)に県が譲り受け、1986年(昭和61年)から石川県立歴史博物館として開館しました。2015年(平成27年)からは、第3棟を利用する加賀本多博物館と合わせ、「いしかわ赤レンガミュージアム」の愛称で親しまれています。



**煉瓦造の基礎の現状保存展示**  
東石下から1,370mm煉瓦を積み、上部幅700mm四方、下部幅1,300mm四方の大きさである。



**第3棟に残る梁と柱(非公開エリア)**  
歴史博物館改修工事においては、第3棟を補修する材料の多くが、第1棟や第2棟から転用されており、木造部分が多く残されている。

第1・2棟は長さ90.9mで、幅は14.5mの規模で、第3棟は長さ85.4mとやや短い。  
意匠としては、煉瓦の小口と長手の列が交互に見えるイギリス積みで、1階側廻りの壁厚は2枚積み、2階側廻りは1枚半積みとし、腰壁部分にはこげ茶の焼過ぎ煉瓦を用い、胴蛇腹と軒蛇腹を廻している。積出柱は、軒蛇腹に接しており、その頂部には笠石が載せられている。  
窓はアーチ窓を開け、木製の上げ下げ窓で、その外側に鉄格子を入れ、更に鉄扉を外開きにする。屋根は、切妻葺瓦葺で、両妻壁の頂点に瓦製のフィニアル(棟飾り)が付く。各建物とも左右対称を基本とした端正な意匠となっている。



**現在の通用門門柱**  
平成27年のリニューアルオープンに合わせて、通用門を復原した。門扉は失われていたが、昭和18年に通用門とともに木製扉から鉄製扉に変更されている別の門扉の古写真から推測したものである。